

平成31年2月26日

保護者の皆様へ

大阪府立堺東高等学校
校長 栗山 悟

感染症（麻しん）についての情報提供

向春の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度に入り、大阪府における麻しん（はしか）患者の報告数が増加しており、2019年2月10日時点で46人と昨年1年間の3倍の報告数となっています。全国的にも既に昨年1年間の患者数の半数を超えるなど、感染の拡大が懸念されています。

麻しんは感染力が非常に強く、同じ空間に短い間いるだけでも空気感染するなど、麻しんに対する免疫が低い方が患者と接触した場合、感染する可能性があります。

そこで、春休みの休暇を踏まえ、外出する機会も多くなることから、今後の感染動向に注意を払うとともに、健康管理にご留意いただきたいと思います。麻しんを確実に予防するためには2回の予防接種が最も効果的と言われています。お子さまの予防接種状況を母子手帳等でご確認いただき、明らかに過去に麻しんに罹っていない方や2回の予防接種を受けていない方など麻しんの抗体を持っていないと考えられる方は、医療機関に必ずご相談の上、予防接種を受けることをお勧めします。

また、疑わしい症状がある場合は、早急に学校へお知らせをいただきますようお願いいたします。なお、医療機関を受診する際には、事前に医療機関に電話で連絡を入れてから受診するようにしてください。

麻しん（はしか）とは

◆「空気感染」「飛沫感染」「接触感染」であり、感染力が非常に強い

1人の患者が12～18人に感染させるなど、インフルエンザの10倍の感染力がある。

手洗いやマスクでは予防できない。

◆感染後の潜伏期間は10～12日であり、その後に発症する。

◆発熱・咳・鼻汁・目の充血・目やになど風邪のような症状が2～4日続き、その後、赤い発疹が首すじや顔から全身に広がり、高熱になる。合併症として、肺炎や脳炎を引き起こすなど、重症例では死亡する場合もある。また、数か月から数年後に亜急性硬化性全脳炎という重篤な合併症が10万人に1人の割合で発生するといわれている。

◆1回の予防接種により95%以上の確率で免疫を獲得し、2回受けることでほぼ100%の免疫を獲得ができると考えられている。

※平成2年4月1日以前生まれの方は1回、平成2年4月2日以降生まれの方は2回の定期の予防接種の機会がありました。母子手帳等でご確認ください。（平成12年4月2日以降生まれの方は、就学前に2回の定期接種の機会がありました。不明の場合は、医療機関で抗体を調べ、抗体が不十分な場合には予防接種を受けることをお勧めします。）

※予防接種を希望する際には、予約が必要な場合が多いので、事前に医療機関に確認をしてください。定期接種以外で受ける場合は任意接種となり、費用は全額自己負担となります。